

Chigasaki Municipal Hospital [Newsletter]

2024.11

茅ヶ崎市立病院通信

第13号

特集

先延ばしにいませんか。
定期的な検診の意味と役割。



乳がん予防啓発月間(10月)、
子宮頸がん予防啓発月間(11月)と続く
秋にちなんで、女性のからだに特有の
2つのがんについて、
予防と早期発見という視点から考えてみました。

特集

先延ばしにしていますか。 定期的な検診の意味と役割。

子宮頸がんや乳がんは早期発見・早期治療ができれば、体の負担も軽くなります。ところが「きっと、大丈夫だろう」「病気に罹患しているのが怖い」と、ついつい先延ばしにしがちなのが検診です。異常をいち早くキャッチし、治療に移すためにも、無症状のうちから定期的に検診を重ねることが大切です。あなたの健やかな暮らしに、検診を有効利用しましょう。

ワクチン接種と検診の習慣づけで見過ごさない子宮頸がん対策

産婦人科

ウイルス感染をワクチンで予防

— 子宮頸がんはどのような病気ですか。

高梨 子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。発症する方は増加しており、しかも若年化しています。実際、世代別だと子宮頸がんは25歳から29歳では女性のがんとして5位ですが、ピークを迎える30歳から34歳になると、乳がんに次いで多くなります。第一子を出産する年齢平均が30歳を超えたところなので、ちょうどこの時期に重なっています。一番楽しい時期ですから、悲しい思いはさせたくないですね。



ただ、原因がウイルスであり、100%ではありませんが、ワクチンで予防できることがわかりました。G7など先進国の研究では若いうちにワクチンを打つと子宮頸がんは80%から90%防げるというデータが出ています。日本ではまだ、そこまで接種率が高まっておらず、子宮頸がん対策は遅れています。

— ワクチンの効果はそれだけ大きいのですか。

高梨 子宮頸がんの原因のヒトパピローマウイルス(以下HPV)は150種類以上あって、がん化しやすい種類とそうでない種類があります。ワクチンを接種することによって何種類かのHPV感染を予防できます。

副反応のリスクよりも罹患するリスク

— どこでワクチンを接種できますか。

高梨 産婦人科や内科、15歳以下なら小児科でも受けることができます。また、当院でも小児科でワクチン接種を実施しています。接種の対象は小学校6年生から高校1年生ですが、それまでに受け損ねた人のためにキャッチアップ接種という制度もあります。

— 子宮頸がんのワクチンというと副反応が気になりますが。

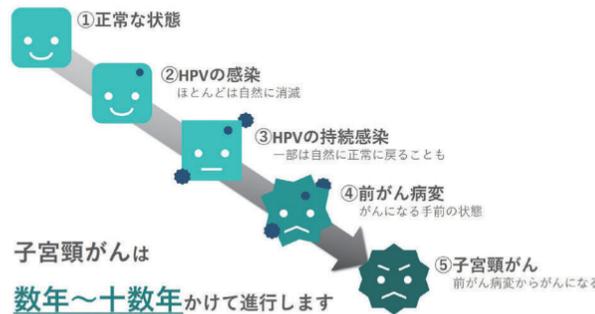
高梨 重篤な副反応が現れる確率は0.05%程度です。一方、女性が生涯で子宮頸がんや前がん病変になる確率は1.3%です。副反応のリスクとワクチンを打たずに子宮頸がんを苦しむリスクを考えると、やはりワクチンは接種するべきだと思います。



ワクチンで足りない部分を検診がカバー

— 女性が20歳になると子宮頸がん検診受診クーポンが送られてきますが、ワクチン接種しても、検診を受ける必要はありますか。

高梨 ワクチンもHPVの全てをカバーしていないので、ワクチンで対



処できないウイルスの感染の有無や状況を検診で調べます。女性の8割から9割はHPVに感染するといわれますが、悪性度の高いHPVでも9割は消えてしまいます。ただその1割が残って、数年~十数年かけてがん化するといわれます。また、病気などで免疫が落ちてると5年ほどで発症することもあります。いきなり悪性化するわけではありません。悪性化する前に手を打つためにも、定期的に検診を受けることは、ワクチン接種と同様に大切です。

— 子宮頸がんの検診はどこで受けられますか。

高梨 婦人科のクリニックや一部の病院で行っているがん施設検診と茅ヶ崎市保健所が実施するがん集団検診で受けられます。

早期発見のために検診を習慣づけ

— 20歳の時から2年に1度検診を受けることが勧められています。



高梨 子宮頸がんはあまり症状が出ないまま進行するので、気づかないうちに進行していることがあります。子宮頸がんはその部分の細胞を見れば、がんかどうか95%はわかるので、もし悪い方に進んでも早めの対応ができます。気になる結果が出ていれば、検査したクリニックから地域の産婦人科医会のネットワークで当院をはじめ高次機能病院でさらに精密検査をする流れもできています。そして、必要ならがんを切除する手術も行いますが、早い対応ができれば、がん化する前に手を施すことができます。

— 子宮頸がんの手術を受けても出産はできますか。

高梨 前がん病変や初期の子宮頸がんの段階で治療ができれば、治療の仕方にもよりますが、概ね出産ができなくなることはありません。

— 若い女性は婦人科に通院するのは勇気がいるといいます。

高梨 検診の通知が届くようになったら、検診を当たり前の気持ちで受けて、習慣づけください。実際、20歳ではまだ早い人もいますが、必要な人もいます。大切な自分の体のためです。ワクチンをきちんと接種して、検診を習慣づけましょう。

INTERVIEW

産婦人科部長 高梨 裕子

医学博士
日本産科婦人科学会認定 産婦人科専門医
母体保護法指定医



細やかな観察と検診で 乳がんをいち早く発見する

乳腺外科

女性9人に1人が乳がん罹患する時代

— 女性のがんの中で乳がんは非常に多いですね。

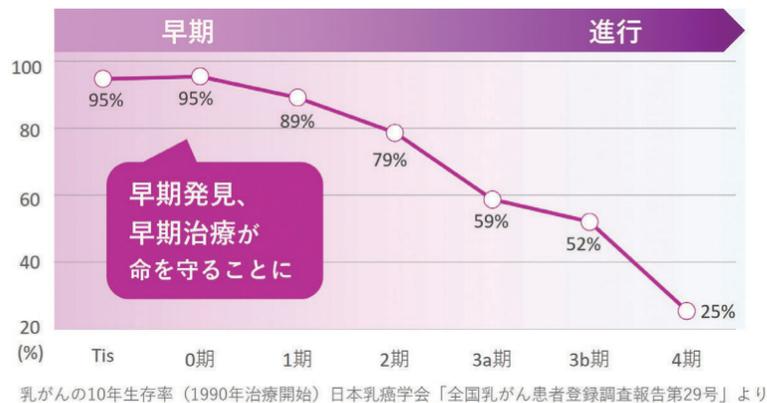
和田 現在、9人に1人の女性が罹患する時代だといわれ、これからも増えることが予測されます。

原因としては食生活の欧米化、ライフスタイルの変化、晩婚化、出産数の減少など、いろいろ挙げられていますが、これさえ避ければ乳がんを予防できる、というものはありません。皆さんに知っていただきたいのは乳がんは決してまれな病気ではなく、だれにでも起こる、日常を変える病気であることです。家族に乳がんの方がいてもいなくても、喫煙歴があってもなくても、誰でも乳がんになり得ることを知り、気をつけていただきたいと思います。乳がんは早期発見、早期治療が可能な病気です。

しづとい乳がんこそ、早期発見が大切

— 早期発見・早期治療にはどうすればいいですか。

和田 乳房を意識した生活習慣、ブレスト・アウェアネスが有効です。日頃、自分の体を鏡で見たり、触れてみたりして、気をつけること。それから検診を受けることです。当院を受診される患者さんにも「前から気づいていたけれども、病院に来なかった」といって病気が進行してこられる方が、一定数いらっしゃいます。違和感に気づいたらすぐに受診するということを知ってほしいです。乳房という特異性もあり、なかなか受診につながらないところがあるかとは思いますが検査を担当するのも大多数が女性スタッフなので、安心して受診していただければと思います。（※当科には男性医師も在籍しています）



— 恐怖心もあるのではと思いますが。

和田 確かにあると思いますが、乳がんは、進行が速くなく、おとなしい病気のイメージがあり、「大丈夫だろう」と判断される患者さんもいます。しかしステージ1で手術しても10年後に転移再発することがありますし、実際は、しづとい側面もあり、術後も継続的に治療を行う必要があります。発見が早ければ、早いほど手術も軽く済みますし、再発予防の治療負担も軽減します。

私は当院に着任して当院を受診される患者さんは病状が進行している例が他の地域に比較して多いと思いましたが、茅ヶ崎市の乳がん検診の受診率が他のがん検診に比べて低く、そこに乳がんの進行と相関関係が見られるのかもしれない。

30歳から自分の体に関心をもって

— 乳がん検診は40歳のときにお知らせがきますね。

和田 乳がんは35歳くらいから増え始め、40代から60代までが多い疾患です。検診は40歳からですが、30代から常にご自分の体に関心を持っていただきたいと思います。検診ではマンモグラフィを使って診断しますが、特に日本人の場合は乳腺の密度が高いこともあり、100%見つけるまでには至りません。それを補完するためにもブレスト・アウェアネスの役割は大きいです。

— 検診は2年ごとに受けることが推奨されていますが、2年の間に乳がんを発症し、進行してしまう可能性はないのですか。

和田 乳がんの進行は比較的ゆっくりと考えられているので、2年に1回の検診で、がんは比較的早期で見つかると考えられていますが、ブレス

ト・アウェアネスはその間にできる乳がんを早期に発見するためにも有効です。

— 検診はどのようにしたら受けられるのですか。

和田 市から送られる通知に記載されている医療機関で受けられます。当院でも健康管理センターで乳がん検診を実施しており、私たちが担当しています。予約も比較的スムーズにできます。

患者さんの日常を大切に治療を

— 検診を積極的に受けて早期発見・早期治療につなげることが大切ですね。

和田 乳がんの治療や診断はそれ自体が怖いと思われがちですが、がんが進行して見つかるより多くの治療に時間やお金を費やすことになってしまいます。どんな状態で見つかったとしても、化学療法を通院で受けることができる外来化学療法室など、極力日常を変えることなく治療を受けられる環境を整えるよう努力しています。また、がん相談や就労支援など患者さんに寄り添ったフォローもしています。がんというと遠くの専門病院にかかろうと考える方もおられると思うのですが実際「専門病院でないとできない治療」というのはさほど多くはありません。当科で治療中の患者さんでも必要な局面では専門病院を受診し、その後戻っていただいたりと連携して治療を行っています。日常生活をなるべく変えないという意味で地域の医療機関を受診することにもメリットがあると思います。



— 昨年にできた外来化学療法室。「安心して治療を受けられる環境になった」と声をいただいています。

進行する前に見つける。積極的に検診を

和田 忙しい毎日をお過ごしている世代の皆さんが、術後、生活を犠牲にして治療をされている姿を見ると、早期発見・早期治療により、少しでも早くいつもの日常に戻ってほしいと思ってやみません。日々、ブレスト・アウェアネスの習慣を忘れず、乳がんに関心する人、苦しむ人が茅ヶ崎から一人でも少なくなればと考えています。

乳房を意識した生活習慣(ブレスト・アウェアネス)

自分の乳房の状態を知り変化に気を付けることは、日常生活の中でも十分取り組め、継続できます。また、この生活習慣を身につけることで、乳房と乳がんに対する関心が高まります。閉経前の女性は、月経周期に伴う変化を知ること大切です。日頃から自分の乳房を意識し、その状態を知っておくことで、はじめて異常の出現に気が付きます。

1) 自分の乳房の状態を知る

日頃から「自分の乳房の状態を知る」こと。入浴やシャワー、着替えの時、自分の乳房を見て、触って、感じてみましょう。



2) 乳房の変化に気を付ける

ブレスト・アウェアネスはしこりを探す自己触診ではありません。

変化を注意するポイントは●乳房のしこり●乳房の皮膚のくぼみや引きつれ●乳頭からの分泌物●乳頭や乳輪のびらんなど。「普段と変わりがないか」がポイントです。



3) 変化に気が付いたら、すぐ医師に相談する

しこりや引きつれなどの変化に気が付いたら、次回の検診を待つことなく病院やクリニックなどの専門医療機関を受診しましょう。自己判断は禁物です。

4) 40歳になったら、2年に1回乳がん検診を確実に受ける

乳がん検診の目的は、乳がんによって亡くなる女性を減らすことです。40歳以上の女性は、マンモグラフィによる乳がん検診を、2年に1回、定期的に受けましょう。「異常あり」という結果の場合、必ず精密検査を受けるようにしましょう。

INTERVIEW

乳腺外科部長 和田 朋子

医学博士
日本外科学会認定 外科専門医
日本乳癌学会認定 乳腺専門医
日本消化器外科学会認定 消化器外科専門医
日本消化器病学会認定 消化器病専門医



令和5年度 茅ヶ崎市病院事業会計 決算報告

決算概要

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、通常医療に軸足を移し、入院患者数が105,361人（対前年度比4.9%増）、外来患者数が219,386人（対前年度比0.4%増）となったことにより、医業収益は前年度と比較し3億9,051万円の増となりました。

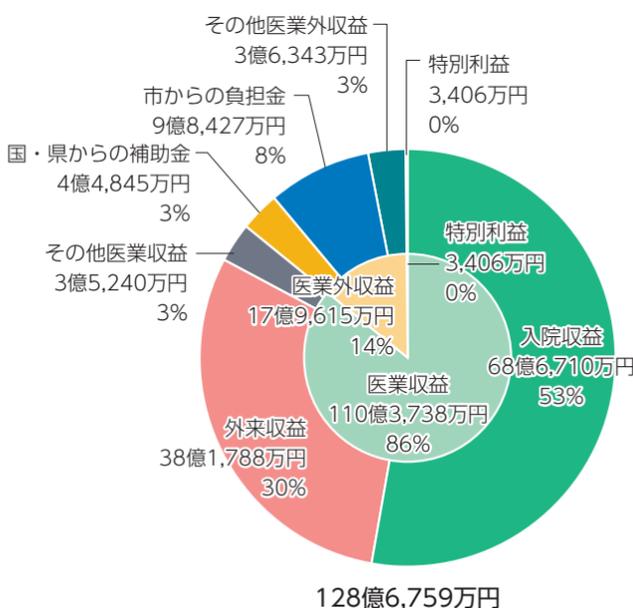
一方で、医業外収益は、新型コロナウイルス感染症に係る補助制度が大きく見直されたことにより、前年度と比較し11億8,634万円の減となり、収益全体では、7億8,764万円の減となりました。

医業費用は、給与費や材料費が増加したことにより、前年度と比較し3億1,766万円増となりました。

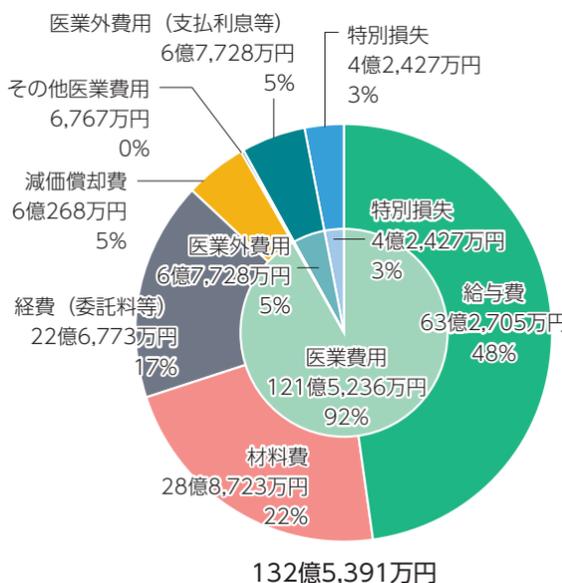
また、過年度分の新型コロナウイルス感染症に係る補助金の返還等を要因として4億2,427万円の特別損失が生じたことにより、費用全体では、前年度と比較し、7億1,700万円の増となりました。

この結果、経常利益が389万円となる一方で、3億8,632万円の純損失を計上する結果となりました。

病院事業収益



病院事業費用



決算状況

区分	令和5年度	令和4年度	増減
病院事業収益	128億6,759万円	136億5,523万円	▲7億8,764万円
医業収益	110億3,738万円	106億4,687万円	3億9,051万円
医業外収益	17億9,615万円	29億8,249万円	▲11億8,634万円
特別利益	3,406万円	2,587万円	819万円
病院事業費用	132億5,391万円	125億3,691万円	7億1,700万円
医業費用	121億5,236万円	118億3,470万円	3億1,766万円
医業外費用	6億7,728万円	6億4,158万円	3,570万円
特別損失	4億2,427万円	6,063万円	3億6,364万円
医業損益	▲11億1,498万円	▲11億8,783万円	7,285万円
経常損益	389万円	11億5,308万円	▲11億4,919万円
純損益	▲3億8,632万円	11億1,832万円	▲15億464万円

診療実績

区分	令和5年度	令和4年度	増減	
入院	延患者数	105,361人	100,465人	4,896人
	1日平均患者数	287.9人	275.2人	12.7人
	診療単価	65,179円	66,010円	▲831円
	病床利用率	71.8%	68.6%	3.2%
外来	延患者数	219,386人	218,473人	913人
	1日平均患者数	902.8人	899.1人	3.7人
	診療単価	17,413円	16,955円	458円

■ 紹介状をお持ちください

初期の医療は患者さんの身近にある診療所が担い、診療所が対応できない医療は地域の基幹病院が担うという医療機関の機能分担の推進を目的として、一般病床200床以上の地域医療支援病院では選定療養費の徴収が義務づけられています。

他の医療機関からの紹介状を持たずに当院を受診する場合は、通常の初診料のほかに選定療養費として7,700円(税込)をご負担いただきます。



茅ヶ崎市立病院

TEL:0467-52-1111



病院ホームページ

◇受付時間=午前8時30分~11時

◇診療時間=午前9時~午後5時

◇休診日=土・日曜日、祝日、年末年始